

■ パーソナリティ（マエストロ）

What'sUP の時間帯ですが、本日の番組内容は丹波市市政広聴会として市民の皆様から頂いた意見や提案について、林市長に直接お答えいただきます。

市政広聴会とは、各世代からテーマへの意見や提案を拝聴し、今後の市政に反映していくことで市民の市政への関心を高めることを目的に開催されるものです。

今年度は、「帰ってこいよ」の輪が広がり、「住もう」「帰ろう」の希望がかなうまちづくりに向けて4つのテーマを決めています。

- ・市民が暮らしやすい丹波市
- ・子育て世代・現役世代が魅力的に感じる丹波市
- ・「帰ってこいよ・帰ってきたい」と声かけ合える丹波市
- ・子どもを産み育てる喜びあふれる丹波市

この4つについて意見交換を行うもので、8月には、パソコンのオンライン会議ソフトである「ズーム」を使用し、デジタルを活用したオンライン形式で市政広聴会が開催されました。これより、ラジオ放送による書面形式の市政広聴会をお送りします。

丹波市から林市長にお越しいただいています。

（こんにちは。丹波市長の林です。）

はじめに、8月に開催された市政広聴会の様子についてお聞かせいただけますか。

■ 市長

市民の皆様から広く意見を拝聴するため、各地域へ出向き、顔を見ながらお話をしたいと考えていましたが、新型コロナの第7波の影響もあり、デジタルを活用したオンライン形式で開催しました。

オンライン会議ソフトやデジタルを活用したまさに今の新しい時代の意見交換の形でデジタル化の波を感じているところです。

このオンライン形式の市政広聴会では、丹波市と連携協定を結んでいる大学で丹波市の事業に携わっている学生や、丹波市の地域活性化のために様々な取組で活躍をしている方々に参加をしてもらい、多くの提案をいただきました。その様子はYouTubeで配信しておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

ただ、単にデジタル化を進めたのではデジタルに精通した人だけに伝えることになります。そのため、デジタルが得意でない人にも声を届けるために、本日は、FMラジオ放送の中で、市民の皆様から書面で頂いた意見や提案に答える形でお伝えしたいと思います。

■ パーソナリティ（マエストロ）

本日、市内の団体から意見提案をお寄せいただいていますので、ご紹介させていただきます。

遠阪自治協議会から「全国の足立さん集まれ祭り」実行委員会 会長の足立^{よしのぶ}喜信さんからのご意見です。

遠阪校区は、少子高齢化が市内でも最も進んでいる地域です。遠阪校区の人口は、年々減少し、現在約 870 人と 9 年前に比べて約 200 人、割合にして 17.7%減少しており、今後この状況は続くものと考えられます。

昨年実施された住民アンケート調査結果を見ると、1 世代・独居世代の割合は、4 割を超えており、農地が、近い将来荒廃していく割合も 2 割を超えるなど、集落内での担い手不足の影響が、如実に表れています。さらには、空き家対策や高齢者の移動支援も早急に検討すべき課題となっています。

また、自治会の存続が困難という考え方を示す自治会も現れ始め、「自治会機能の低下や存続の危機・農地の荒廃化・空き家対策・高齢者の移動支援」など少子高齢化がもたらす深刻な課題を抱えています。

しかし一方では、村おこしや移住者の受け入れなどの地域活性化を望む声が、74%もあります。

このような課題を解決していくためには、地域外から人を呼び込み交流人口を増加させ、外部の人材を受け入れて、地域での賑わいを復活させることが必要であると考えます。

少子高齢化の問題ですね。それでは林市長お願いします。

■ 市長

ご意見、ご提案ありがとうございます。

1 つ目の少子高齢化による地域における課題解決に向けた交流人口の増加についてお答えします。

ご意見をいただきましたとおり、遠阪地区も含め青垣地域は、市内でも人口減少が顕著にみられ、令和 3 年 4 月には、旧青垣町全域が過疎地域として国から指定されたところ です。

この過疎地域というものは、簡潔に言えば、人口の減少・少子高齢化の進展によって、ほかの地域と比較して地域活力が低下している地域のことです。そのため、国においては、指定された地域の持続的な発展に向けて、特別な財政的な支援を行うこととしており、丹波市も国の支援を受けるため、計画を策定して、取組みを進めているところです。

特に、青垣地域には交流人口・関係人口と深い関りがある、すばらしい地域資源の一つであ

る、関西大学佐治スタジオがあります。ここを通じて多くの学生の方が地域に入り、関りを持っていただいています。このような取組を強化していくことで、日常のなかで多くの学生が佐治の街中だけでなく、青垣地域のいたるところで地域の皆様との関わる姿がみられれば、地域の賑わいの創出につながるものと考えております。

市としましても、国の支援を最大限活用する中で、地域の皆様とともに、地域にある資源を活用しながら、安心して暮らし続けることができる地域をつくっていきたいと考えております。

■ パーソナリティ (マエストロ)

遠阪地区は、NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の御家人の一人で、足立氏の祖とされる豪族である足立遠元の孫 足立遠政が青垣町に地頭として赴任して、山垣城を築いたことから、遠元・遠政の供養塔や墓などがあるゆかりの地であります。

そのため、大河ドラマで関心が高まっているこの時期に足立姓の一番多い遠阪地区で、全国の足立さんと交流を図るための「全国の足立さん集まれ祭り」を11月13日(日)午前10時から、旧遠阪小学校体育館で行います。

この事業を契機として、遠阪地区への交流人口や関係人口を増加させ、地域の賑わいの復活や地域の活性化を図り、前述の課題解決につなげていきたいと考えています。

皆さんおなじみの NHK 大河ドラマですね。ラジオをお聞きの皆さんもファンの方が多いのではないのでしょうか。それでは林市長お願いします。

■ 市長

広報たんば9月号でもお伝えしておりましたとおり、遠阪自治協議会と「全国の足立さん集まれ祭り」実行委員会が合同で企画を考えられ、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で足立遠元役を務める大野泰広さんのトークショーが、9月3日に開催されました。

トークショーでは、大野さんからドラマのみどころや撮影の裏話などをたくさん披露していただき、大いに盛り上がりました。「何らかの形で、引き続き丹波市の魅力を発信し続けていきたい」との嬉しい言葉もいただきました。

大野さんにはトークショーのほかに、遠元と息子の遠光の供養塔や、孫の遠政の墓などを参られ、早朝には私と一緒に黒井城跡にも登りました。私が毎日登っている黒井城跡ですが、本当に偶然にも天候にも恵まれ美しい日の出と雲海を見てもらうことができ、大河ドラマがつないだご縁から、丹波市の魅力を存分に味わってもらえたと思っています。

今回の大野さんの来丹は、大河ドラマをきっかけに地域を盛り上げようと、遠阪自治協議会と「全国の足立さん集まれ祭り」実行委員会が合同で企画に取り組みられ実現したもので、引

き続き、この盛り上がりを絶やさないよう、11月13日（日曜日）には、全国の足立さんと交流を図るため、「全国の足立さん集まれ祭り」が開催されます。

丹波市出身のソプラノ歌手である足立さつきさんや、（春日町出身で私の近所です）ピアニストの足立^{ともりの}知謙さんも出演予定と伺っています。

足立さんでなくても参加可能とのことですので、沢山の方々に参加いただきたいと思いません。

今回の企画は全国の足立さんをはじめ、大河ドラマファンの方々に向けて、丹波市との関わりを持っていただける大きなチャンスでもあります。

地域の賑わいの復活と活性化に向け、大河ドラマが繋いだこのご縁と勢いを、ラジオをお聞きの皆さんも是非一緒に盛り上げていきましょう。

■ パーソナリティ（マエストロ）

私も実は姓は足立なんです。実行委員会の一員でもあります。

丹波市の方で後援いただいて盛り上げていただいていることはすごく嬉しく思います。

これを機におもしろいところ、ええとこやなど思ってもらえる人を増やしていただきたいと思えます。

■ 市長

実は黒井城跡で、毎日一緒に登っている人も足立さんなんです。

横におられた人も旧制足立なんです。との事でした

アンダチの足立さんも喜んでおられました。

■ パーソナリティ（マエストロ）

丹波市薬剤師会 副会長の石塚正則さんからのご意見です。

コロナ禍の現在において既に第8波とインフルエンザの流行が予測される中、今第7波の終焉^{しゅうえん}を望みつつ私たち薬剤師は自宅療養者への支援としてオンラインを活用したお薬の説明や相談、また処方された薬、一般薬をお届けする（ポストイン）事業を行っています。

私のかねてからの構想は、丹波市において、いざというときに即応できる災害医療チームの結成です。丹波市大水害の経験、そして今のコロナ禍に対応できる多職種連携チームの必要性を感じています。私も兵庫県で5人の日本災害医学会の災害医療認定薬剤師の一人として活動しております。兵庫県薬剤師会災害支援薬剤師も数名在籍しています。そういった職能を発揮できる組織を具体化できる事を希望します。

また、丹波市は認知症予防事業を推進されております。病院内で認知症対策チーム（DC T）を立ち上げているところがあります。私の思いは丹波市でこのチームを立ち上げることにあります。幸いにして認知症キャラバンメイト連絡会などの組織も存在しております。行政と諸団体が手を組んで、より安心して住みやすい『帰ってこいよ！』といえる街づくりを目

指したいと考えております。

私たち薬剤師は地域に貢献できる事を信条としております

今後、私の提案を含め、市が市民のみなさまに様々の取り組みをされる際、私たち薬剤師にお手伝いできることがあれば協力させていただきます。ということです。

ありがとうございました。

それでは林市長お願いします。

■ 市長

石塚さん、ご意見、ご提案ありがとうございました。

まず、はじめに、昨年、5月から11月に実施しました新型コロナワクチン接種においては、丹波市医師会と薬剤師会の先生方のご協力を頂き、実施することができましたこと、大変感謝しております。ありがとうございました。この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

それではご提案の1つ目である、

「オンラインを活用したお薬の説明や相談、また処方された薬、一般薬をお届けする（ポストイン）事業を行っています」とのことですが、必要な方には大変重要な取組だと思います。このような薬剤師さんの活動をまだご存知ない方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。私も実は今回まで知りませんでした。

この活動がより推進されるよう、理解し、地域の見守り活動と共に支えていくことが大事だと思います。

2つ目の災害医療チームの結成については、

現在、災害時や緊急時に役立つ健康カードの取得を NPO 法人丹波医療介護連携推進機構が中心となって進めており、薬剤情報の登録を市内薬局のご協力を得て、実施している状況です。このきっかけとなったのは、平成26年度の丹波市豪雨災害の際、現在のようなお薬に関する仕組みが無かったことから、お薬を持ち出せなかったケースでは、かかりつけ医に連絡し、薬局へFAXいただき、処方いただいた事例があります。災害時、処方箋に対応いただくことは被災者にとって非常に重要と感じました。この経験については有効的な対応として医療関係者へ引き継いでいきたいと思っております。

石塚さんご提案の災害医療チームの結成については、有用であると思われませんが、医療行為であることから、医師会と薬剤師会の連携により、今後このような活動や取り組みが、組織的に具体化し活発なものとなりますよう連携を強化していきたいと思うところであります。

3つ目の認知症対策チームの立ち上げについては、

現在、認知症予防に関して神戸大学と共同で研究事業を進めており、今後は研究事業終了後に地域で成果を実証していくことが重要と考えています。具体的には認知症予防に効果の

ある二重課題運動について動画を作成し、希望される団体に動画を収録した DVD を配布していきたいと考え、準備を進めているところです。

昨年、私、東京まで行き、二重課題運動について講演させていただきました。

大変、興味をもって聞いていただきました。

ご提案にありました認知症キャラバンメイトについてですが、キャラバンメイト養成講座を受講し、認知症サポーター養成講座の講師として活躍する方は、丹波市内に、令和4年3月末で65人いらっしゃいます。

各所で開催される認知症サポーター養成講座で活躍されていますが、養成講座への依頼を待っているだけではないと、3年前からアルツハイマーデーの啓発等、地域へ出て認知症の正しい理解と認知症状のある方の尊厳を守る対応の普及啓発に努められています。

丹波市キャラバンメイト連絡会の一員である丹波市薬剤師会様のお声かけにより、10月30日に丹波市薬剤師会主催の「くすりと健康 市民講演会」が開催されますが、キャラバンメイトによる市民への認知症に対する理解を深める機会をこのように提供いただき、ありがとうございます。

市としましては、認知症予防については、症状に対する薬剤治療だけではなく、生活習慣病等、認知症の発症に関係が深いとされる病気の治療も含め、お薬の管理等により高齢者を支えていただいている薬剤師会との連携は必須と考えております。

今後は、薬剤師会様の事業にキャラバンメイトを活用いただき、共に連携を図りながら認知症状があっても住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域づくりを進めていきたいと考えておりますので、今後ともご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

■ パーソナリティ (マエストロ)

ありがとうございました

私、不勉強でわからないところがありまして、二重課題運動とはどんなものですか

■ 市長

両方の手で違う動きをすることです

例えば左手で三角を書く、右手は丸を書く。それを同時にしましょうというもので、脳が活性化するものです。

■ パーソナリティ (マエストロ)

認知症が進むと出来にくくなるのですね

■ パーソナリティ（マエストロ）

団体からのご提案です。

NPO 法人たんばコミュニティハブ 代表の岩間さんからのご意見です。

・日本一ネコと人が幸せに暮らす丹（まごころ）の里 丹波市をめざして
現在、丹波市内で地域猫活動を推進するため、地域のハブ役として少しでもお役に立てればとの想いで活動を行っています。

これまで市内の多くの自治会で、地域猫活動に賛同を頂いており、住民同士のコミュニケーションも取れ、幅広い年齢の人が住みやすい地域だと実感しています。

地域猫活動をする事でノラ猫のことばかりではなく、高齢者、移住者の孤立を防いだり、命を大切にしたりという子供の教育、環境保全、防犯、防災など、地域のつながりを深めることにもつながります。

地域猫活動は、市、県、国で推奨されている活動であり、人と猫の共存に最も効果的であるといわれています。こうした活動の支援を早期に取り組んでいただいた丹波市はまさに、「日本一ネコと人が幸せに暮らす 丹(にゃごころ)の里、丹波市」と言えるでしょう。今後、丹波市全域でさらに地域猫活動が広がるよう、行政から広報、支援の輪を積極的に展開いただければと思います。

それでは林市長お願いします。

■ 市長

岩間さん、ご意見、ご提案ありがとうございます。

日頃は地域猫活動の推進に大変お世話になっております。

この、地域猫活動も最近では全国的に認知度が高まり、国、地方を上げて取り組まれています。環境省では飼い主のいない猫対策として地域猫活動が紹介されています。

丹波市では、平成 29 年度の請願を受けて、翌年度には、地域猫活動の取組を支援するため、「地域猫の不妊・去勢手術費の一部補助する制度」を設けました。

ちなみに令和 3 年度末時点で市に登録されている地域猫は 222 頭です。この数を多いと捉えるか、少ないと捉えるかは、様々な見解があると思います。

- ・おなかを空かせたかわいそうな猫を助きたい
- ・野良猫で迷惑している

この二つに共通するのは野良猫を減らしたいという思いです。

また、無責任な飼い方により、飼い主に捨てられた猫も少なくはありません。そんな野良猫を少しでも減らすため、地域猫活動が推奨されているところでもあります。

活動を推進するため、地域の理解を得るなど、大変な苦労があると思います。

頂いたご意見のとおり、地域猫活動を通じ、動物の命の尊さの学び、住民同士のコミュニティや見守り活動、さらには決まった時間のエサやりによる防犯対策のような複合的な効果

も期待できることを知っていただきたいと思います。

ラジオをお聞きの方で、これから地域猫活動を始めたいという方もおられると思います。そういう方々とも繋がりを広げて活動を継続いただきたいと思います。

「まごころの里」を「にゃごころの里」とは地域猫ならではのユニークな発想ですね。

活動を推進するため、地域の理解を得るなど、大変な苦勞もあると思いますが、引き続き、市も積極的に周知を行いますので、共同で活動を推進していきたいと思っています。ご意見、ありがとうございました。

■ パーソナリティ (マエストロ)

私も保護猫を8匹飼っています。

市の手続きよりも前に飼ってしまったので登録を受けずに

先に申請を済ませてから手術を行うなど、計画的に進めることが必要なようです。

避妊・去勢手術には半額の補助があるようです。(補助対象額の1/2)

不幸な猫は多いです。大事にしていきたいと思います。